

企画・制作/福島民報社 広告局

### 社会貢献フォーラム in 福島 3.11から10年 地域社会をつなぐ社会貢献

# 「福島であったこと」を次世代に伝えるために

3.11から10年。「社会貢献フォーラムin福島」が10月2日、福島市のとうほう・みんなの文化センターで開かれた。一般社団法人パチンコ・パチスロ社会貢献機構、福島民報社、福島民友新聞社、全国地方新聞社連合会の主催。物語「フクシマのウシ」の朗読に続き、「地域社会をつなぐ社会貢献」をテーマにパネルディスカッションが行われました。



**風化させないために  
記録と記憶伝え続ける**  
パネリスト 菊地 芳朗さん  
福島大学つくしまふくしま未来支援センター長

**身近な人に語り始めることから**  
パネリスト 青木 淑子さん  
富岡町3・11を語る会代表

**地域の人たちにとって  
居心地の良い場所に**  
パネリスト 諸田 英模さん  
福島県遊技業協同組合  
連合会理事長

**心に笑顔取り戻す思いで  
10年過ごしてきました**  
パネリスト 芥川 麻実子さん  
道の駅「八王子滝山」  
名誉駅長  
道路環境プランナー

**声に出し、手をつなぎ  
心もつないでいけたら**  
パネリスト 村松 真貴子さん  
フリーアナウンサー  
(公財)「八王子市学園都市  
文化ふれあい財団」理事長

震災で起きたことを「知らなかった」という世代が増えてきた今、「若い世代への継承」や「表現力を育てること」の重要性などがパネリストから提案されました



## 第一部 村松真貴子さんによる朗読と作者の芥川麻実子さんのストレートトーク



朗読中に村松さんは「涙が止まらなくて困った」と言う



「フクシマのウシ」の一場面

### 朗読

東日本大震災によって起こった事実を題材にした芥川麻実子さんの作品を村松真貴子さんが朗読。情感のこもった物語に登場者約270人が静かに耳を傾けました。

柱をかじり  
待ち続けたウシの話  
村松真貴子さん

(あらすじ) やさしいお母さん「に育てられた牛のメッシー。あの日、お母さんは「すぐに帰れるだろう」とメッシーをつないで出かけた。お腹がすいて柱をかじり待ち続けたメッシーはやがて天に召されます。雲の上で「またお母さんの元へ

いきたい」と願ったメッシーは、犬(豆柴)に生まれ変わり避難生活のお母さんに飼われます。残した牛を思い泣いていたお母さんは犬にメッシーの面影を見つけた笑顔が戻りました。

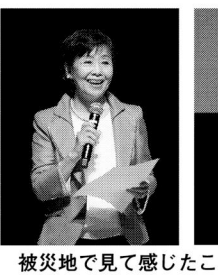
写真を見せられました。3・11は東京も大きく揺れて、愛犬が私を心配して2階まで駆け上ってきた。改めて「一人でも誰か生きられない」と思ったのが、作品を書いたきっかけです。

復興への道  
芥川麻実子さん

震災当時、道の駅「八王子滝山」(東京都)で駅長をしていた私は、八王子の農業生産者から「ウシがかじった柱」の

「フクシマのウシ」作者 芥川麻実子さん  
日本女子大学文学部卒業。テレビラジオ等でタレントとして活躍した後、渡米。UCLAで映画を学ぶ。ロス五輪の日本放送連合のコーディネーターに担当。帰国後、米国テレビ向けニュース番組のフロデュースを行う。交通評論家に転じ、東日本大震災復興支援活動を行った。日本道路交

被災地で見えて感じたことを10年にわたり発信してきた芥川さん(右)



被災地で見えて感じたことを10年にわたり発信してきた芥川さん(右)

被災地で見えて感じたことを10年にわたり発信してきた芥川さん(右)

被災地で見えて感じたことを10年にわたり発信してきた芥川さん(右)

被災地で見えて感じたことを10年にわたり発信してきた芥川さん(右)

被災地で見えて感じたことを10年にわたり発信してきた芥川さん(右)

被災地で見えて感じたことを10年にわたり発信してきた芥川さん(右)

## 第二部 パネルディスカッション 3・11から10年——地域社会をつなぐ社会貢献

東日本大震災から10年。震災によって損なわれてしまった地域コミュニティを再び甦らせる取り組みについて。地域社会をつなぐ社会貢献のあり方とは？

# 私共は、東日本大震災を乗り越え、未来へと向かう皆さまを支援し続けます。



一般社団法人パチンコ・パチスロ社会貢献機構は、社会貢献事業が社会を支える極めて重要な活動であるとの観点に立ち、遊技産業並びに公的機関、民間団体と連携しながら、文化・芸術の振興や平和で住みよい社会づくり、パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む民間団体及び研究機関に対する支援などの社会貢献活動を推進することを目的としています。

**助成事業**  
社会貢献活動を行う団体への助成事業は、当機構の根幹事業です。社会貢献フォーラムin福島に登壇された富岡町3・11を語る会と福島大学には、福島県遊技業協同組合連合会と共同で助成させていただきました。  
■2016年度助成事業  
「語り人活動のほか地域展開による避難者の心のケア」事業  
NPO法人 伝えない  
富岡町3・11を語る会

**顕彰事業**  
遊技業界が全国各地で実施している社会貢献活動を報告していただき、今後の一層活発な活動を期待し、最も優れた取り組みに対して、平成17年から「社会貢献大賞」を授与して顕彰しています。  
■2018年度助成事業  
「[LIFE]に寄り添い続ける」  
包括サポートプログラム」事業  
福島大学  
災害ボランティアセンター

■第15回 社会貢献大賞  
「不登校児童が通う  
フリースクール」  
「三重シュール」支援」事業  
三重県遊技業協同組合

■第16回 社会貢献大賞  
「医療用防護服および  
オゾン系外線除菌機器の  
寄贈」事業  
石川県遊技業協同組合  
同県金沢支部